

## Ⅱ章 - 自治会等への加入を促進しよう

### 【活動事例】

令和2年1月に実施した「自治会・町内会運営状況アンケート」で、自治会等が特に抱える問題、課題として多くの自治会が「役員のなり手不足」「会員の高齢化」を挙げられました。

課題解消のための一つには、さまざまな世代の方が少しずつ自治会活動に関わることが大切ではないかと考えます。ここでは、工夫して加入促進に取り組む自治会等の事例を紹介します。

#### 西明石町連合自治会 700世帯 ～わかりやすい資料で自治会を紹介～

西明石町1丁目から5丁目を範囲とする当自治会では、それぞれの丁が責任をもち、11点の資料を用いて加入促進をしています。

新規転入者への働きかけとして、「自治会のあらまし」、「自治会ニュース」などまずは6点を持参し説明します。次に加入してくれそうなら、「ごみ分別カレンダー」「町内住宅地図」「自治会の活動報告や今年度の活動計画」など5点を追加して渡し、自治会の運営や活動が一目見てわかるようしています。さらに、自治会の必要性や加入のメリットを伝える内容の文書を「自治会加入のご案内」に盛り込み、ともに住みよいまちづくりを進めましょうと呼びかけています。

特に若い世代の加入に力を入れており、すぐに加入してもらえない場合もありますが、根気強く訪問して加入につなげています。



自治会の運営や活動が一目で分かる資料（上）  
公民館には自治会加入訪問セットを  
常備している（下）

#### 八木自治会 550世帯 ～女性役員も加入促進に加わる～

八木自治会では、新規転入者に対する自治会勧誘は組長（隣保長）の役割となっていますが、新たな開発地で新しい組が増設となる場合は、自治会幹部役員が入会依頼に伺っていました。しかし、役員が訪問しても玄関先に出ていただけでないことが度々ありました。訪問時に対応してくださるのは女性の方が多いので、女性役員の方がソフトでコミュニケーションを取りやすいのではないかと考え、女性役員も訪問するようにしています。

訪問時には、自治会活動を理解していただきやすいように、自治会のスローガン「あいさつ運動」や夏まつりや秋まつり等の行事・活動等を掲載した資料と「ごみ分別カレンダー」を持参して加入促進を図っています。

また、当自治会の地域は開発地域が多く、一組単位（7～10軒）で戸数が増えていることもあり、開発業者や建設業者には、必ず自治会加入を勧めていただくよう依頼をしています。その甲斐あって、入居後は進んで自治会加入の問い合わせや連絡をいただけるケースが多々あります。おかげさまで自治会会員は年々増加してきています。

町内には38戸建てと18戸建ての2つのマンションがあり、どちらも開発業者の理解と協力をいただき、全戸町内会に加入しています。

事前に町内会で「36世帯の小規模で高齢化が進んでいるため、10年後、20年後を見越して、マンション入居者にも町内会に入ってもらいたい」と役員会で合意を得ていました。そして、業者が開発に伴うあいさつに来られた時に、「分譲契約前に町内会加入について十分周知すること」との意見を承知していただき、その結果、全戸加入で、会費についてはそれぞれの管理会社から一括納入していただいています。

町内会を理解してもらうため、マンション管理組合の総会に毎年出席して町内会や校区の色々な行事等の説明をしたり、町内会の役員を出してもらいマンション住民に対して回覧・掲示・各戸配付等もしてもらっています。今では、廃品回収やスクールガード活動の協力者もできました。

これからも町内会の情報を丁寧に伝え、できる範囲の活動に関わっていただけたらと考えています。

自治会設立前の2022年10月、グランヒルズ大久保に居住または居住予定者対象に行政が主催の住民懇談会が開催されました。

当日は住民の方々がたくさん参加し、「どんな街にしたいか」「自治会は必要か」等をテーマに意見交換を行いました。

その翌月に、懇談会で熱心だった方々を中心に協力者会議を開催し、自治会の必要性について話し合い、「自治会は必要」との意見がまとまりました。その後、改めて区域内に居住の方を対象に、「自治会設立に向けてのアンケート」や「自治会設立に向けてメンバー募集」を行ったところ、「自治会が必要・あればよい」と回答してくれた方が住民の8割以上を占め、20名以上の方が自治会設立に向け協力すると回答してくれました。

そこからは協力者と行政で何度も会議を重ね、規約や役員/班決め等を検討していきました。協力者は共働き世帯が多かった為、会議の日時等に配慮するなど無理のない範囲で開催するように心がけました。たくさんの方の協力があったおかげで、設立総会は会場が満席で、自治会加入率も100%となりました。

